

第16回八代地域審議会発言要旨

委員	事務局
市民事業仕分け結果について	
仕分け委員はよく勉強されていた。	内容によっては事前研修が要らないものもあった。画期的な市民事業仕分けにあたり、各委員会よく勉強していただいたと感謝している。
役所用語はなかなかわからない。仕分けの前に事前研修していた班は、よく意見が出ていたのでは。	
事前に仕分けしたいものを聞くのならわかるが、これとこれを仕分けしてというのは本末転倒では。	国の補助事業など、絶対しなければならない事業と事務事業を除いた約300の事業の中から、行政として聞きたいものを今回あげた。ただし目的は国のようにお金を削ることではなく、事業の進め方・やり方かどうかを検討していただくことだった。その結果「要改善」が多く、廃止は4つ。しかも来年度の廃止は一つである。 予算は変わらないものもあるかもしれないが今後皆さんに報告していく。不満もあると思うが委員の選定も含め、今年の実績を取り込んでやっていきたい。
仕分けの意見を次年度に生かしていけるなら不満はあるがついていくしかない。23年度も仕分けがあると聞いているが委員はいろんな面からしっかり勉強が必要だ。	
こんなに勉強が必要なのだから、来年も仕分けするなら同じ人が出るべきである。	
仕分けの結果を聞き、審議会は活性化していないのかと反省したが、法令で設置されたものを、自治体で廃止等決定できるのか。 また八代市の委員数が少ないのではないかという意見は、旧八代市なのか新八代市なのかわからない。	地域審議会は合併特例法に基づいて設置されたが、市民目線でやり方・あり方を評価していただくために実施した。 委員数については旧八代市は広いためそういう意見が出たものだが、地域の統一を図るために12名でそろえている。 法律的には自治体が条例で定めるもので、設置は義務ではなく10年間必ず実施と決められてもいないが、八代市では重要と考え現在も実施している。

委員	事務局
費用対効果はどうか。	費用対効果を出すのは難しいが、審議会で意見を聞くことは重要であり、大きな効果があると思う。
仕分けの組は7人と少なく発言者もわかるので、強い結果は出ないと思う。	
改善策として審議結果報告を旧八代地域は公民館に掲示するとあるが、公民館に行く人は行くが、行かない人は行かない。	旧郡部はケーブルテレビや支所だよりがあるからよいが旧市では方法が難しい。全戸配布の総社教だよりが一番いいが紙面的に無理。公民館掲示にして見てもらえるようフォローアップする必要がある。
自分自身、役をやめたら公民館へは余り行かなくなると思う。年寄りには遠いと思わないから考えてほしい。	
自分たちが評価されたことに驚いた。テーマと宿題が出ればもっと考えやすいと思う。	
回数が少なく時間も短いため、つっこめない。審議会の公表というが何を公表するのか。	
市報には載せているのか。	課題となるテーマが少なくなり、現状、報告会になっている。4期目は合併効果の検証など考えていきたい。市民への周知については今後広報し関心をもってもらいたい。現在も市のホームページで議事録は公開しているが、見る人が少ないようだ。
各地域から一言集めて掲載してはどうか。	
意見に合併して5年経過し不安解消できているとあるが、実態としてはまだ一体化していない。一つ一つ協議が必要だ。	
住民自治によるまちづくりの推進について	
3ページに住民自治活動支援交付金の種類が載っているが、校区福祉分は入っているのか。	入っていない。
あとでそっちでやれ、こっちでやれという話にならないか。	現在、社協の役員方と調整中である。

委員	事務局
<p>住民自治はどのくらい浸透していると思うか。子育てや仕事をしている若い人たちがどのくらい入っていれば指定されるとかはあるのか。余り人が行かない公民館を拠点とする意味がわからない。</p>	
<p>八千把とか二見はすごい。人と公民館がつながっている。</p>	
<p>住民の何割が理解していれば指定できるとかあるのか。</p>	
<p>校区福祉会の時には、市が手取り足取り計画を作らせ、今では八千把や二見のように大きな公民館祭りを開くようになっていく。指定されてから育っていくのではないか。</p>	<p>モデル地域に指定させていただいた後は、町内会単位の説明会をし、若い世代の人たちに理解してもらえればと思う。</p>
<p>7ページの組織運営育成強化支援補助金は平成24年度から3年間となっている。27年度からは全くないということか。</p>	<p>モデル地区への手厚い支援である組織運営育成強化支援補助金は、地区により課題が違うので、どういう支援が必要か検討し支援する。モデル地区に対する検証の結果、全校区必要だという場合には、27年度以降加えることも考えられる。</p>
<p>ではこの補助金はモデル地区への支援であり、27年度で打ち切りだが、実証試験の結果必要だと思われれば交付されるかもしれないということか。</p>	<p>違うメニューになるかもしれないが、有り得ることである。</p>
<p>別紙2で交付時期がバラバラなのはおかしいのでは。</p>	<p>例であり、計画表ではない。</p>
<p>別紙2は話が違う。区切って話してほしい。補助金は26年度申請なら26年度はぎりぎり1年間もらえる。但し必要が出てくれば(全校区への交付の追加も有り得る)ということでした。</p>	
<p>モデルになれば必要があれば別の予算でくれるということである。</p>	

委員	事務局
強化補助金の額はどうか。	活動支援については新たな算定方式に基づいて基礎部分が5,800万円、組織立ち上げで150万円、それから強化補助金は一律でなく各校区により取組みが違うので、設立準備委員会で意見を出してもらい、財政協議し予算化していくこととなる。
24年度に開始なら23年度に指定申請で、前年度申請になるが皆知っているのか。	各校区で説明済みである。
各校区で何歳代が何人とか(基準)はないのか。役をしている人たちが決めて浸透するのか。失敗したら誰が責任をとるのか。	責任は地域全体でとなるだろうが、そこで一番の問題になるのが町内会への加入促進である。コミュニティの希薄化と言われる現代だからこそ、新たなコミュニティを作り活性化できればと思う。
始めはできるのかと思ったが、知人も複数、住民自治をよく知っている。自分たちの地域がしていることを知れば、世代間の格差もなくなるのではないか。	
総社教の話し合いでは皆わかっているが、あとの人は知らない。普及率は1~2%。公民館に行くのも我々も月2回程度である。	
緑のゴミ袋も浸透したし、分別も始まってからでも覚えられたし、住民自治はできるのではないかと思う。	
夏祭りなど地域がやっている内容はわかるが、住民自治が始まるのを知らない。予算を一つにしてやっていかなければならないが町内会長ですらよくわからない。だがモデルで実施していかないと普及しないのではないか。	
仕事をしている人たちは、昼間、会議があってもいけない。イ	

委員	事務局
<p>ベントだけなら入りやすいが、年中通してやるとなれば、30代・40代がどう入ってくるかである。市も何でも答えられる職員を何人置いてくれるかだと思う。</p>	<p>皆さんの言われたようなご心配やご意見があるからこそ、住民自治が必要なのではないかと感じた。地域のヨコのつながりは行政ではできない。始めは難しい面や不安があるが、市はカネも人もなくアテにならない。新しく組織を作り若い人を取り込み、地域の皆さんができることをやってくれたら、不可能なことが可能になる。厳しい世の中を乗り切るために一緒にやっていかなければならない。</p> <p>住民自治の周知についてはモデル地域が宣伝になり、口コミで広まってほしいと思う。27年度から市内全地域での実施を目指しているが、皆さんの意見を糧とし検証しやっていきたい。</p>
<p>一人でも多く参加することが大事になるだろう。</p>	
<p>校区福社会の時が同じような心配をした。始めた時は社協の職員に出て来てもらい当時は大変だったとは思いますが、そんなふうにはやっていけないのではないかと思う。</p>	
<p>先ほど言われた八千把・二見については大きな祭りをやっている。地域の人たちが寄付金を集め、伝統行事やバザーなど知恵を出し合っただけの様子を見て、これが住民自治かなと思った。これがじわっと各地域に定着するのかなと。</p> <p>地域間格差もあるが、まずは若い人や企業を取り込んでいこうやっていくしかないと思う。</p>	
<p>イベントは取り込みやすいが年中通してとなると若者の理解が必要だ。企業も今は時期的にしんどい。</p>	
<p>高田の夏祭りは20年以上続いている。心配するほどのことはないのでは。</p>	
<p>その他（地域審議会委員アンケートについて）</p>	
	<p>委員の皆さんにアンケートをお願いしている。今後、合併効果の検証を考えていきたいのでぜひご記入いただきたい。市民の皆さんへの審議会の周知方法等についてもご意見をいただきたい。</p> <p>今回は先行モデル地域についての要望を案として出すので協議願いたい。</p>